

氏名	藍畑麻美	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	母性看護学・助産学				
学位	修士（看護学）				
学歴	2005年広島県立保健福祉大学保健福祉学部看護学科卒業、2023年武蔵野大学大学院看護学研究科修士課程修了				
経歴	2020年4月～2024年3月東京工科大学医療保健学部看護学科助手、 2024年4～5月埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科非常勤、6月～助教				
所属学会（役職）	日本看護科学学会、日本母性看護学会、日本フォレンジック看護学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作(著書及びその他の著作物)						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	該当なし					
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	動画を活用した大学生へのプレコンセプションケア授業の教育効果	共同	第27回日本母性看護学会学術集会、千葉市		○坂上明子、青木恭子、富岡優理恵、 <u>藍畑麻美</u>	2025.6
2	臨地実習における看護学生の Sexual Harassment 対策（第1報）被害内容と教員への報告・相談経路	共同	第27回日本母性看護学会学術集会、千葉市		○富岡優理恵、青木恭子、坂上明子、 <u>藍畑麻美</u> 、林はるみ	2025.6
3	臨地実習における看護学生の Sexual Harassment 対策（第2報）教員による対応	共同	第27回日本母性看護学会学術集会、千葉市		○富岡優理恵、青木恭子、坂上明子、 <u>藍畑麻美</u> 、林はるみ	2025.6
4	臨地実習における Sexual Harassment の現状（第1報）～全国看護系大学への悉皆調査に基づく教員の対応～	共同	日本フォレンジック看護学会第12回学術集会、草津市		○富岡優理恵、青木恭子、坂上明子、 <u>藍畑麻美</u> 、林はるみ	2025.9
5	臨地実習における SH の現状（第2報）～全国看護系大学への悉皆調査に基づく対策の現状と課題～	共同	日本フォレンジック看護学会第12回学術集会、草津市		○富岡優理恵、青木恭子、坂上明子、 <u>藍畑麻美</u> 、林はるみ	2025.9
6	プレコンセプションケア動画による学び～看護学部生及び非医療系学部生への教育～	共同	第23回日本生殖看護学会学術集会、那覇市		○坂上明子、富岡優理恵、青木恭子、 三好しのぶ、 <u>藍畑麻美</u>	2025.10
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等		発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	該当なし					
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	分娩期のケア		2	助産系4年生の必修科目で、望ましい出産体験の支援と無痛分娩のケアを担当した。望ましい出産体験の支援では、グループワークを用いて一方的な講義にならないように工夫した。無痛分娩については、臨地実習を見据え、無痛分娩が広まっている経緯や助産師として必要な知識について伝え、無痛分娩における助産師の役割を考えることができるように工夫した。		

2	母性看護学Ⅱ		2	3年生の必修科目である。産褥期の進行性変化・母乳育児支援の講義を担当した。昨年度の内容をブラッシュアップし、動画の使用やモデル人形等を用いて実際の母乳育児支援の場面をデモンストレーションを行い、学生がイメージしやすいように工夫した。
3	周産期のケア		1	助産系3年生の必修科目で、母乳育児支援の講義を担当した。既習の知識について学生に質問をしながら復習し、さらに母性看護学Ⅱでは伝え切れなかった助産師として求められる知識や支援方法を伝えるように工夫した。3事例用意しグループワークでアセスメント、支援の方向性を考えるように支援した。また、災害時の支援についての資料を掲載し学習を促した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	分娩期のケア		27	助産系4年生の分娩第1期のケア、内診、NCPR、分娩介助練習、助産過程を担当した。分娩第1期のケアでは、指導者役と1GのFTを担当し、臨床現場をイメージできるように工夫した。内診の演習では事例を作成し、モデルを用いて実際の内診技術が経験できるように工夫し、技術の習得だけでなく、産婦の状況や思いを考えられるよう支援した。NCPRの演習では、1Gを担当し、ノーマルな事例から胸骨圧迫が必要となる事例までを実際の商品や新生児蘇生モデルを用い、実際の状況を説明しながら行った。助産過程や分娩介助練習では、実習を見据えて支援した。
2	母性看護学Ⅱ		1	3年生の母乳育児支援の演習を担当し、昨年度の学生の反応を受けて内容をブラッシュアップし、次年度の母性看護学実習を見据え具体的な実践につながるように工夫した。講義との繋がりを意識し、講義で使用した3事例のロールプレイを取り入れ、看護師、褥婦、観察者それぞれの役割から事例を学べるようにそれぞれの視点のポイントを伝えてから実践できるよう工夫した。乳房の観察や授乳姿勢など、模型や実際の商品を使用し、技術の習得や褥婦の気持ちがイメージできるように関わった。
3	周産期のケア		15	助産系3年生17名の母乳育児支援の演習、助産師外来演習Ⅰ・Ⅱの1G(学生3名)、模擬集団健康教育をの1グループ(学生5名)を担当した。母乳育児支援の演習では、講義で用いた3事例を用い、ロールプレイの中で、具体的な看護展開、支援を実施できるように作成した。助産師外来演習Ⅰ・Ⅱでは、妊婦健診の技術の習得や、保健指導についてより効果的な支援ができるよう意識し外来看護の特徴についても考えるよう関わった。模擬集団健康教育では、学生が主体的にかつ集団健康教育の目的が達成できるように支援した。
4	遺伝と看護		7	PBLにて1グループ(学生5名)を担当した。出生前診断を受けた夫婦の事例について、学生のディスカッションが深まるよう知識の補足したり、臨床での経験をもとにファシリテートした。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	母性看護学実習		2025.5~2025.6	3年生20名(計5G)の学生を担当した。他施設と異なる複雑な実習形態だったため、より効果的に学びが得られるよう日々臨床指導者と実習内容を調整した。限られた時間の中で学生の学びが深まるような助言や、対象理解につながるような説明を補足する等留意した。
2	総合実習(母性看護学領域)		2025.7	助産系4年生4名を担当した。外来実習では、対象の理解やケア計画の立案だけでなく、外来における助産師の役割について考えられるよう支援した。病棟実習では母性看護学実習との違いを意識して学生が実習に臨めるように支援した。

3	助産学実習Ⅱ		2025.8～2025.11	助産系4年生3名を担当した。安全な実習が行えるよう臨床指導者や他の教員と情報共有を密に行い、日々の実習内容を調整した。思考の整理や技術獲得に向けて支援し、分娩介助の振り返りを通して、学生が自己の課題と向き合えるようにサポートした。NICU実習では、NICUにおける看護について知識を補足したり、NICUにおける助産師としての役割について考えることができるよう留意した。
4	IPW実習		2025.8～2025.10	IPW実習科目担当者会として施設FTオリエンテーションで施設FTの役割説明した。IPW実習②では、地域担当教員として、東部②地域の6チームを担当し、各チームの教員FTと調整しながら、発表会の準備・運営を行なった。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2025.4～2025.12	主指導	0名 副指導 1名
(5) その他				
	名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)	
1	紙上事例の作成	2025.11～2025.12	母性看護学Ⅱの看護過程演習事例をMedi-EYEにて作成した。臨床実習での電子カルテ操作を想定し、情報の示し方や記載する内容について工夫した。	
2	武蔵野大学大学院	2025.8	武蔵野大学大学院の修士課程「母子看護学特論Ⅱ」の1コマにおいて、研究計画立案過程を自身の経験を踏まえて解説した。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	リアル体験教室	埼玉県	「看護師になりたい」	2025.11
2	出張講座	春日部市立緑中学校	「一緒に考えよう性感染症/私たちの性」	2026.2
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	第27回日本母性看護学会学術集会	実行委員	2025.4～2025.6	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	NPO法人ラクテーションコンサルタント協会	東京エリア世話人	2020.4～現在
2	地域貢献活動	ラクテーションコンサルタント東京	運営委員	2019.5～現在
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	学科等における委員会等	IPW実習科目担当者会		2025.4～2026.3
2	学科等における委員会等	実習計画調整会補佐		2025.4～2026.3
3	大学広報活動	オープンキャンパス		2025.8
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	優秀演題賞	日本フォレンジック看護学会第12回学術集会	2025.9	
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			